

# 令和5年度 第4回茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会会議録

議題	1 茅ヶ崎市文化生涯学習プランの改定について(答申案) 2 その他
日時	令和5年10月2日(月)14:30~16:15
場所	市役所分庁舎5階 特別会議室
出席者	野田邦弘委員長、山口佳子副委員長、清水友美委員、矢川憲委員、 松本陽子委員、岩本一夫委員、沼上純子委員、青木幸美委員、 楠山小百合委員、伊藤隆治委員  (欠席) 尾木左紀子委員、西澤秀行委員、入江観委員、井上由佳委員  (事務局)文化推進課 大竹文化スポーツ部長、菊池文化推進課長、井上課長補佐、 粟生田課長補佐、大久保課長補佐、田中副主査、篠崎主事
会議資料	・次第 ・資料1 茅ヶ崎市文化生涯学習プランの改定について(答申案)
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	—
傍聴者数	0人

## 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会

令和5年10月2日(月)14時30分から  
茅ヶ崎市役所分庁舎5階 特別会議室

### ○事務局(菊池文化推進課長)

本日はお忙しい中ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。ただ今より令和5年第4回茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会を開催させていただきます。

本日は、尾木委員、西澤委員、井上委員から御欠席のご連絡をいただいております。入江委員からはご連絡はございませんが、10名の委員のご出席をいただいておりますので、茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会規則第5条第2項に定める開催要件を満たしておりますことをご報告いたします。

また、この会議は公開となっておりますが、本日は傍聴の申し出はございません。

次に、資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、事前にお配りしているものとして、次第、及び、【資料1】「茅ヶ崎市文化生涯学習プランの改定について(答申)(案)」となります。不足している方はいらっしゃいますでしょうか。

それでは、議事進行につきましては、委員会規則第4条第3項及び第5条第1項の規定により、野田委員長をお願いいたします。

### 〔議題1 茅ヶ崎市文化生涯学習プランの改定について(答申案)〕

### ○野田委員長

これより会議をはじめます。会議の進め方として、発言の際は、挙手していただき、私からご指名させていただいた方にお話をいただくというお約束事で進めさせていただければと思います。

本日の議題はその他を含め2件となっております。それでは、議題1、「茅ヶ崎市文化生涯学習プランの改定について(答申案)」について、事務局より説明をお願いします。

### ○事務局(大久保課長補佐)

議題1「茅ヶ崎市文化生涯学習プラン骨子(案)」についてご説明いたします。これまでの委員会でのご意見を踏まえ、修正を加えたものが【資料1】茅ヶ崎市文化生涯学習プランの改定について(答申案)になります。本日は、記載内容の最終確認をお願いしたいと考えております。【資料1】の表紙裏面のページの「はじめに」及び、最後のページ(51ページ)の「むすびに」は、これまでの議論の経過を踏まえ、野田委員長に案文を作成していただきました。こちらは委員会としての御意見の記載欄となりますので、記載内容について、皆様から御意見をいただき、確定をしたいと考えております。なお、前回の会議でいただきましたご意見を踏まえ何点か修正をさせていただきましたので、ご説明をさせていただきます。6ページをご覧ください。生涯学習の概念について、前回までにいただいていたご意見を踏まえ、表を修正し、生涯学習が自発

的意思に基づく学習、教育等について包含することが視覚的に分かるようにしました。また文章にて、生涯学習は、文化推進課や教育委員会だけではなく市の様々な部局で実施されておりますので、各部局のつながりが重要である旨を記載しました。42ページをご覧ください。施策4になります。修正の兼ね合いで若干言い回しを変更しているところがございますが、大きなところとしまして、主な取り組みの二つ目、「クリエイターの育成に向けた取り組み」を「クリエイターの育つ環境づくり」と変更し、内容につきましても、「子どもたちを中心に幅広い世代にクリエイティブな職業や活動に興味を持ってもらうとともに」という部分を追記させていただきました。議題1についての説明は以上です。

○野田委員長

事務局の説明が終わりました。私が案を作成しました、「はじめに」及び「むすびに」の内容を中心に、ご意見をいただければと思います。ご質問はございますか。

○矢川委員

6ページの「生涯学習とは」の概念図に「偶然に起こる学習」という記載がありますが、これは何を指しているのでしょうか。

○事務局(井上課長補佐)

偶然に起こる学習については、現行のプランの7ページに「偶然に学習が起こる場」という記載があることを踏まえ、記載しているものです。内容としましては、生活のあらゆる活動の中で結果としてたまたま何かを学ぶ、偶然に学習するといったことを指しております。

○矢川委員

そこまで書く必要があるのでしょうか。

○事務局(井上課長補佐)

図の中に行政が支援・推進を行う対象として囲んでいる部分があります。生涯学習は偶然起こる学習を含めた大変広い概念になりまして、その中でも行政が行う範囲を明確に示すために、その対比として偶然に起こる学習も入れているものです。

○野田委員長

つまり、行政があらかじめ考えて事業化したり、対象に取り上げているもの以外でも何か起こってくるものもあるだろうから、それも丁寧に拾っていくものがあるんじゃないかと。そこを書きたかったということだと思いますが、偶然起こるという説明だと分かりにくいのかな。もう少し今のコメントような説明を加えた方がよいのではないのでしょうか。

○岩本委員

ごもっともだと思うのですね。入れてもいいし入れなくてもいいし、それほど重要なフレーズじゃないと思うのですよ。ただ、それをあえて入れたいのであれば別に差しさわりのないと思います。芝居やっているよね、偶然に起こる学習って結構あります。今回も七堂伽藍(しちどうがらん)の話をやったのですけどね。七堂伽藍のことってみんな知らないのですよね。それからまず皆勉強してこいよと。富士山が噴火した昭和6年頃の文化だとかね、食べ物だとかね、着るものだとか、そういうものを勉強してこいよっていうのをやったのですけど、芝居の勉強とは全く違う茅ヶ崎の学習だったら日本の歴史の学習をそこでせざるをえなくなっている。多分そういうことも偶然に起こる学習じゃないかなと思います。

○事務局(井上課長補佐)

そうですね。違った媒体、例えば演劇とか、読書とか、映画鑑賞とか様々な媒体で、それによってまた別の媒体が学びになるってことは、起こり得るものだと思います。そちらを、偶然に起こる学習として括っているのですけど、このままでは分かりにくいというご意見をいただきましたので、例えばそういった事例を補足で入れるなど、説明を入れることを検討します。

○野田委員長

例えば想定外とかね、いろんな他の言い方もあるから、要は、あらかじめを前提にしたもの以外で新しいものが出てくるかもしれない。それは柔軟に対応していく必要があるということをお願いしたいわけですよね。それをちゃんと伝えるようにしてもらったらいかなと思います。

○沼上委員

6ページの生涯学習の概念のところですが、社会教育、学校教育、課程教育はもちろん生涯学習だと思うのですが、地域社会、地域教育とか、コミュニティっていうのが、今出てきていると思うのです。あと、企業とか NPO 法人とか、一般社団とか、そういうところも今、生涯学習に関わる大事な母体だと思います。偶然に起こると、自発的などころでは、保護者とか、それは学校教育に入るか分からないのですが、個人の単位のところは偶然に含まれるのかとか、一番気になるのは地域教育、地域社会、コミュニティ、あと法人、企業、医療法人とか、そういう団体も生涯学習のこれからに大きく絡んでいくのではないかなと思います。

○事務局(井上課長補佐)

NPO とか、地域の教育コミュニティについては生涯学習に関係してきます。実際 NPO さんとも連携しながら事業をやっておりますし、今後ますますそういったところが重要になってくると思います。あと、この図の中で言うと、NPO さんは団体という性質になりますので、NPO さんでも例えば、社会教育的な事業もやっていると思いますし、やっていけば、図でいう社会教育の部分を担うとか、そういった分けになるのかなと考えています。

○野田委員長

従来、教育って学校の独占物だったのですよ。それじゃおかしいよねと。死ぬまで教育的なことってあるだろうということで、社会教育と言われるのだけど、これ実は戦後のアメリカ軍の押し付けという感じがあって、社会教育という言葉がだんだん人気なくなっていくのです。それでもう 30 年ぐらい前に文科省が生涯学習に言い換えたのですよ。それで言葉の言い換えが進んでいるのですが、法律が残っているから、社会教育っていうのはあります。

今、ご指摘いただいたように、学校と家庭は抜くことはできない、つまり、これは主体を言っているのですよね。学校とか家庭。教育は誰がやるかということを行っているので、社会が教育するのはおかしいだろうという議論があったのです。その辺の議論があんまり決着ついていなくて、制度上は社会教育と生涯学習が二本立てになっているのが実態です。そういう中で、主体で書いているのだから、広い意味で企業とか NPO も社会を構成している団体ですからね。含めていいじゃないかと思いますが、そんなに厳密に考えなくていいと思う。学問的な論文ではありませんから、間違っていたらいけません、おそらくそういう言い方でいいのではないかと私は思います。

○松本委員

今のところなのですけど、文化庁とか他の自治体の生涯学習の計画を見ると、ボランティア活動や NPO とかも生涯学習の中に入っています。だとすると、この教育委員会が支援・推進を行う領域というのはちょっと違ってくるのかなと。ここに「など」を入れるとか、何か少し変えたほうがいいと思います。

○野田委員長

おっしゃる通りですね、教育委員会が NPO を所管していませんから、そこはちょっと表現を修正した方がいいですね。それから民間企業とか NPO とかが出てこないから、その民間非営利の活動も、言葉として使っていくことも大事ななと思います。形式的に分けると社会教育、学校教育、家庭教育になるけど、実態としては、特に NPO などいろんな活動をしていますし、企業も研修という形でいろいろやっていますから、いろんな主体が教育活動に参加しているのは事実なので、その辺の非営利の民間活動っていうのは、どっかで入れた方がいいかなと私も思います。

○事務局(井上課長補佐)

1 点、すみません。今、NPO の話が出ていましたが、この表はそもそも行政が支援・推進を行う領域ということで、行政が主体の部分のみを書いています、市と教育委員会で分けておりますので、ここに NPO を含める形で「等」とするのはちょっと難しいのかなと思います。

○野田委員長

図には入れなくていいと思うけど、文章の中で例示か何かで入れた方がいいのではということです。

○事務局(井上課長補佐)

36 ページの施策 1 の部分でございますが、②の「学びの機会の充実」の一番下の方で、NPO と連携して、大学、企業も含めてですけれども、学びの機会を提供するというところで記載しています。

○岩本委員

別件、6 ページの方で、各部局がつながりというのはとても大事なことだと思いますが、今までこれがなされていないのですよね。縦割りがどうにもならないって気がしているのね。以前のこの委員会でも多くの指摘があって、今後そういう方向にしくちゃいけないという意見も出ているのが、社会教育課との合併みたいな話まで提言が出ていましたよね。そういうことは、この間も検討されているというお話をさせていただきましたけど、難しいですよ。実際。でもどこかでそれやらないと、事業が跨って市民が困惑しているのだよ。よくあるのが公民館で、生涯学習の拠点であるはずなのに、なんでこのプランに全く入ってこないのか。これには理由があって、このプランは市民にはほとんど読まれないよね。だから誰も気がつかないよ。多分。この間も SNS で発信しますっていうけど、じゃあどうやって市民に知らしめるのですか。市の広報に載せるのかもしれないけど、その広報の購読率がどのくらいかお分かりですよ。特に 20 代 30 代の人だとどれくらい広報を読んでいるか。2~3%ですよ。つまり浸透しないのです。プランは。各部局が横の繋がりを持つのは、このプランの事業だけでなく、あらゆるところでとても大事な点なのですよ。これがどうもお役所仕事で縦割りになっていて、昔から言われているのだけだね。縦割りはやめようって、全然止まないのだよ。その弊害がどこに出てくるかといえば、市民の生活に普通に関わってくるわけだから、ここでは、繋がり大事だねということしか言わないけれども、どうやったら横断的な政策ができるのか、市民にわかりやすい対応ができるのか、それを考えるのがいつも言っている行政の文化化なの。もうちょっと文化的になろうよっていうね。紙媒体でガンガンやっている時代はもう終わったのですよっていうぐらい世の中変わっているわけだから、それに合わせてね、行政も、文化化を進めるべきだろうなと強く感じています。それと 42 ページの方で、「子どもたち」というのもとても大事なことだけど、これも本当にできるのか。文書に入れるのは簡単だけど、それをどうやって実現していくのかという話になると、ものすごく難しいというか、できないだろうって感じの方が強いわけだよ。だから今後、このプランに書いてあることを本気になって全部をやっていこうとしたら、それはすごいことだけど、その中でこういうとても大事なことをどうやって実現していくのか。真面目に正面切って検討していただきたいと思っております。

○野田委員長

極めて本質的な問題提起かと思えます。何か事務局からコメントがありましたらお願いします。

○事務局(井上課長補佐)

縦割りによって、市民の皆様が、例えば学習に関わる情報などがなかなか取りにくいっていう、各課がやっているとところは確かにございますので、今、検討段階ではございますが、例えば庁内で行われているもの、教育委員会で行われている生涯学習に関わる講座を、カテゴリーといいますか、ジャンル別に

一体的にホームページ等に載せることを検討しているところです。実現すれば、市民にとってはホームページを見れば、ジャンルごとに市で行われているまなび関係のことが分かるようになりますので、そこは検討を続けていきたいと考えています。

#### ○野田委員長

単純な質問ですが、6 ページの生涯学習のところの 6 行目で、教育委員会の領域である教える者と教わるものがある教育の中に家庭教育が入っているじゃないですか。これって正しいのかな。例えば、衛生行政をやっているところとかもありますよね。これはちょっと違うじゃない。つまり、一部はそうだけど、家庭教育全体が教育委員会の所管じゃないですよ。ここは一旦整理してもらえますか。あと、公民館の部分がいかにもお役所的だと思ったので、教育委員会が所管する施設(公民館など)といった併記すれば別に問題ないと思うので、そこは工夫していただけますかね。いきなり統合だったらでかいけど、なかなかそれは進まないでしょうから。かといってできないから外すって感じられたので書いといたらいいと。できなくても書き続けることは大事だと私は思います。

#### ○沼上委員

6ページのところですが、岩本委員がおっしゃった部分なのですけれども、社会教育の中に公民館や博物館や図書館も含むという認識を持てれば、それも含んでの生涯学習ということで、すべて網羅して、これからは生涯学習という大きなくくりの中に社会教育が入っている。その社会教育の中に、公民館や博物館、図書館があって社会教育法ができたということが伝わればいいんですよ。

#### ○野田委員長

社会教育も生涯学習の中に入っているのだから、公民館も全部生涯学習だと言っても間違いではないのです。だけど、役所の縦割り、事務分掌上そう言われると混乱が起これと。公民館の所管は教育委員会なので。だから役所の事情ですよ。市民から見れば関係ない。

#### ○矢川委員

50ページのプランの進行管理のところ、単年度評価をやると書いてありますよね。最初の方、4 ページの計画期間の表にはその単年度評価が記載されていないのは、何か特別な意味があるのでしょうか。

#### ○事務局(粟生田課長補佐)

今後このプランを策定した後の評価については、50 ページの通り単年度評価と、年度の間あたりでの中間評価、あとは期末評価をやる予定になっております。4 ページの図については、この図をあまり複雑にしないというところで、評価について記載していないのですけど、入っていた方がわかりやすいということであれば、そのような形で修正は可能であると考えております。

○矢川委員

50 ページを読めばよくわかるのですが、先に 4 ページを見たときに、しばらく評価や振り返りをやらないのかなという違和感があったので、質問させていただきました。

○野田委員長

前からかなり評価のための評価じゃないかっていう意見が出ていましたから、そこを少し直してもらいましたけど、ちょっと唐突な感じがあるかもしれませんね。50 ページに書いてあるけど、もっと前の方であればよかったのかもしれないですね。

○松本委員

この答申は、市民には特に公開するものではなく、これに基づいてこれから市の方で計画を作っていくという認識でよいですか。

○事務局(栗生田課長補佐)

ご覧いただいている答申の案につきましては、会議資料として市のホームページに公開されます。今後の計画策定までの流れですが、いただいた答申を元に市の方で次期プランの素案を作成いたしまして、そちらを議会に諮り、パブリックコメントを実施しまして、そのご意見を踏まえて修正し、最終的に計画案として年度内にまとめるというスケジュールで考えております。

○松本委員

そうしましたら、野田委員長が書いてくれました「はじめに」はとてもいいと思いますけど、私はシビックプライドという言葉が、聞いたことはあっても意味がわからなかったもので、ウェルビーイングは後ろの方に注釈がありますが、シビックプライドも市民に読んでもらうためには注釈が必要かなと思いました。あと、読売新聞に 2022 年の調べのシビックプライドのランキングが公開されていて、茅ヶ崎市は首都圏で 16 位だったのですね。そこでは藤沢市が 2 位で茅ヶ崎も意外に高いなと思いました。その辺も注釈が必要かなと思います。

○野田委員長

確かにシビックプライドは補足説明が必要だけど、「はじめに」なんで何か注が入るとカッコ悪いですよ。括弧書きで市民の地域への誇りとか何か補足的にあっていいと思いますが、今のご指摘の 16 位っていうのはどうでしょうか。

○松本委員

16 位か 19 位だったかもしれません。藤沢市が 2 位で、鎌倉市が 9 位で、次が茅ヶ崎市。そういう記事だったのですけど、市民があまり知らないのかなと。



○野田委員長

そこは事務局にお任せします。書く価値があると思ったら書いてください。

○沼上委員

44 ページの文化生涯学習活動拠点と文化財のところですが、今回の修正案で、今まで意見が出た公民館とか、図書館博物館、いろいろ生涯学習に関わる幅広い歴史的文化的資源とか遺跡とか、そういう文化生涯学習プランにふさわしい茅ヶ崎にある色々なものがここに反映されていたので、この会議で話し合ったことが受け入れてもらえてよかったと思っています。茅ヶ崎には美術館もありますけど、例えばゆかりの人物館とか、開高健記念館とか、旧南湖院第一病舎とか茅ヶ崎ならではの文化や歴史があるので、これからの生涯学習にすごく広がっていくきっかけになる展開図になっていると思います。ありがとうございます。

○野田委員長

そうですね。ここで指摘したことが反映されているということで、これ見れば全部一覧できますよね。

○岩本委員

改めて確認をしたいのですが、「市民大学」という言葉がまだ生きているのですね。これ、本当にやる気だったら、施策の方にあるはずなのだけど、なくなっていて大筋のところに出てきているのですけどね。なんで重点戦略の一つ一つが施策になっていないのかよく分からない。茅ヶ崎市民大学の構築とか体系化とか書いてあるにも関わらず、施策の方にはなにもないのでね。見落としているのかもしれませんが。

○事務局(粟生田課長補佐)

今のお話は、24 ページ(3)の重点戦略の最終評価に書いてあるのに、今後の施策の中に入っていないというご指摘かなと思っております。24 ページ、第2章は、前プランの最終評価の内容を記載しておりまして、この最終評価はこの委員会の中で以前いただいたものになっております。それぞれの最終評価から出てきた課題につきましては30 ページにまとめておりますが、市民大学は前のプランの重点戦略1、学びの機会の体系化で取り組んできたものです。こちらでは課題を二つ挙げており、⑪番の「講座の体系化、情報発信」、⑫番の「多世代が意見交換できる場づくり」となっています。こちらの丸数字は、本プランにおける同じ30 ページの右側の表の中、「文化生涯学習を活かしたまちづくり」の中で⑪番の「講座の体系化、情報発信」が含まれているのと、⑫番の「多世代が意見交換の場づくり」につきましては、上から二つ目の「人材育成・支援」で位置付けており、本プランにおける位置付けの四つの枠が施策の1から4に該当しておりますので、前プランで出てきた課題については、次のこのプランでそれぞれの施策に引き継いで今後もやっていくという作りになっております。

○岩本委員

市民大学は前回もあきらめたけど、今回もあきらめたっていうことね。

○事務局(井上課長補佐)

市民大学は、講座の体系化というところが目的だと思いますので、そういった意味では、43 ページの施策 4 の③「様々な分野・実施主体との連携による総合的な事業展開」の中、「生涯学習事業のコーディネートによる学びの機会の充実」というところで、生涯学習ポータルサイト、これはホームページに載せておりますが、各課の事業を集約して一体的に情報発信するなどを行っていきたいと考えています。

○野田委員長

現段階ではその程度ですよ。事業として市民大学をやるという話ではないと。今やっていることを注視しながら、ある段階でそういう芽が出たらそのベースを検討していくということかなと思います。

○山口副委員長

今回の答申の構成から見ると、第 2 章の前プランの振り返り、課題と提言というのが、きちっと具体的に載っていて、提言をどれだけ生かせるかというのが、次のプランが目指す姿になると思いますが、例えば、施設間の連携のコーディネーターであるとか、先ほどの市民大学もそうですけど、市外から引っ越してきた人がどこへ行けば、何があるか。子どもがいたら、どこのお神輿が担げるかとか、そういったところまで、まなびの窓口で、市外から来た人を茅ヶ崎のそういったところに導いていくという部門が、取り上げられてないように思っていますが、この答申の中ではそこまでは具体的にしないということでもよろしいのでしょうか。

○事務局(井上課長補佐)

まなびの窓口については、39 ページ、一番上段の「まなびの相談窓口の運用」に記載しておりますが、相談窓口はハマミーナまなびプラザ等に設置しておりまして、市民の方から例えばこのような講座を受けたい、こういったサークルに入りたいというご相談を受けた場合に生涯学習ガイドブックに基づきながら、その方に合った学びにつなげる取り組みをしているところです。

○山口副委員長

まなびの窓口はどこにありますか、と市役所で聞くとこうやって教えていただけるのでしょうか。

○事務局(井上課長補佐)

市役所にお電話で問い合わせ等いただきましたら、私ども文化推進課でご案内をさせていただきます。また、当課でも学びの相談を受け付けておりますので、その中で対応させていただくことも可能です。

○山口副委員長

ありがとうございます。もう一つ。各施設を連携させるためのコーディネートをする方は、先ほどから出ている市役所の情報を横断的に持っていないとできないと思いますが、市役所の中での連携やコーディネートを進めるためにどういうふうにしたらよいか、何かお考えがありますでしょうか。

○事務局(井上課長補佐)

今年度からの取組としましては、教育委員会で行われている事業と、市長部局の生涯学習の事業の計画を年度当初から共有することで調整しております。今後につきましては、他の市長部局でもいろんな事業がありますので、例えば、生涯学習ポータルサイトに生涯学習に関する事業をリンクづけて、それがカテゴリー別に並んでいけば、市民の方が市全体の講座をジャンル別に把握できるのが理想であると考えておりますので、検討は続けていきたいと考えております。

○沼上委員

6 ページに戻りますが、その教育の下に括弧書きで社会教育・学校教育・家庭教育と書いてあります。学校教育でできないものを社会教育が行うわけですが、学校教育は小学校、中学校、高校、大学とか幼稚園とか、その部分に関しては専門的なのですよ。地域の人が入ったり、地域に出たりということが今、学校で行われているのですが、これは社会教育なのですよ。だから、これからの生涯学習で一番大事な部分は社会教育なのですよ。地域とか、高齢者とか、男女共同参画とか、いわゆる学校教育ではない部分はすべて社会教育に関わってくるのですよ。その重さとか内容の広さ、深さを考えると、ここをもう少し違う書き方でできないでしょうか。生涯学習の中に占める社会教育の分野の広さ、これからさらに社会教育の位置付けが大きくなってくると思うのです。一番市民に関わることだから、もうちょっと社会教育は市民のものなんだっていう意識になるような表現にしてもらえないでしょうか。

○事務局(井上課長補佐)

このプランは、市の方で委員の皆様と作っているところですが、このプランが支援・推進を行う領域は「自発的意思に基づく学習」ですので、基本的にここを目立たせる形はさせていただきますが、先ほどいただいたご意見を踏まえ、例えば、教育の表現でよくあるのが、学校教育と家庭教育を丸で囲んで、社会教育がそれを取り囲むイメージの書き方もできるかと思いますので検討いたします。

○野田委員長

蛇足ですけど、事務局におかれましては、生涯学習と社会教育の違いを厳密にしてください。それは歴史もありますし、いろんな考え方があります。日本だけが非常に特殊な使い方をしている面もあります。実は、世界的に一番ポピュラーなのは「生涯教育」という言葉なのかもしれませんし、そこは事務局の方でももう 1 回チェックしてください。役所の中で挙がりやすい言葉とか、そういう小さな話ではなくて、これはまさに本質なのですよ。学習する主体は誰かという議論があって、やっぱりそれは学習者本人だろうとい

うのが原点なので、だから人は生涯にわたって自分で学習していくということがあって、それに対する必要なアシストを教育という形でやっていくのがいい。

ただ、義務教育までは、決まったことをやりますよということなので、繰り返しますけど、せっかく文化と生涯学習が一つの課になっているので、先ほどまでは立ち上げ批判をしていますけど、それが社会に戻ると何の意味もないとか逆行しているから、そこは教育委員会とも十分に決められたらどうですかね。言葉の精査をしたほうがいいかなと思いますので、ここは修正案を出してください。あまり間違った表現にしないほうがいいかなと思いますので。

あとそれから、生涯学習の相談窓口の話では、自分が何を勉強したらいいかという相談ってなかなかイメージしにくいのだよね。今ゆかりの人物館で純水館の研究員を募集しているでしょ。僕も知らなかったのだけど、純水館は一時期かなり大きい企業だったのだよね。純水館のこの研究会でもいいし、そういうことに興味を持った市民もおられると思うから、そういうことを並行してやるか、あるいはその研究員が半年間研究した中間発表みたいなことをやるのも一つ意味があると思うのですよね。

つまり、何が言いたいかというと、茅ヶ崎の地域資源、今はもうなくなっちゃったけど、かつてそういう活動が市内で行われていて、全国的にも名前が通っていたわけですよ。そういうことの研究を募集するのだと。そういうものをネタにしながら、研究や学習の根っこづくりじゃないけど、グループ形成に繋がるといいと思うので、ぜひそこら辺を総合的に考えて研究員が決まったら任せっきりじゃなくて、これくらいだったら中間発表会を市民に対してやると考えておられるかもしれませんが、そういうことをいくつかの分野で仕掛けていくことが、気が付いたら市民大学の科目が1つ増えたとなるような、複合的な視点を持っていただければと思いました。

#### ○岩本委員

36 ページと 38 ページにある、関係する文化芸術の鑑賞の機会を増やすとか、市民文化祭を支援するとかということが、僕がまさに取り組んできたところなのですが、昔はね、文化会館で高尚な芸術の鑑賞を年間 12~13 本やっていたのですよ。市の予算でね。これはお客さんが入るか入らないかに関係なくて、見た方が得になるよというものを、とにかく文化会館でやっていこうということで、歌舞伎や能やいろいろやったのだけど、今、そういうものがゼロですよ。そういう鑑賞の機会を作るはずの文化会館が、鑑賞の機会を作らないで、民間の事業者が持ち込んだ企画を調整しているのですよ。文化会館がこういうのをやりたいね、これを市民に見せるべきだよって、発掘した企画じゃないのだよね。事業者が持ってきたものをこれいいねってやってみようかっていうのを共催でやる。なぜ共催かというと文化会館は払わないで済むから。予算なしでできちゃうのですね。そういう中で、クラシック音楽やオペラなどはやっているけど、和ものはほとんどない。なぜかというと儲からないから、そういうものを持ち込む事業者がないのだよね。事業でも予算が減っていて、文化会館がやっていることは、子供のためのワークショップとかそれに毛が生えたようなもの。ダンスとか演劇だとか、ほとんどそういうものだけになっちゃった。これはね、悲惨な状況ですよ。

市民文化祭にしても今まで文化会館の使用料は無料だったのですね。それが全部有料になって、なおか

つ文化祭に参加する人には補助金が出ていたけど、それもゼロになって、文化祭に出るのにえらいお金がかかるようになってしまったね。でもそれは20年ぐらい前から将来そうなるよ、役所におんぶにだっこされていたら文化が育たないよって言ったので、皆さんあんまり意見してないけど、でもできなくなっちゃう事業が出てくるのですよ。それから、参加したくても、参加できない人も出てくる。例えば、お金にそんな余裕のない高齢者の方とかはもう文化祭に参加したくてもやっぱりできないね。

あるいは、若い人を発掘しようとしても予算が取れないから、ジリ貧になって無くなっていく部会もある。菊花とか盆栽は時間の問題で無くなっちゃいますよ。もうすでに民謡が無くなったし、文化人クラブは無くなったし、様々なジャンルが消えているのですよね。こういう状況にどうにかして歯止めをかけないと市民文化祭は育たないのだけど。行政はそれに対して何の応援もしてくれないよね。

それともう一つ大事なのは、市民文化祭で、今1本しかやってないけども、それに参加できないとか、参加しない人たちがすごく多いのですよ。文化祭に参加している人は、文化芸術に関わっている市民のほんの一部しかない。例えば若い人たちの音楽活動だとか、ダンス活動は全く参加してない、受入れる余地がない。素地がないっていうかね、そういう人たちをどこかで誰かが集めて、本当の意味での市民文化祭、誰でも自由に無料で参加できる場を誰かが作ってあげないと育たないですよ。それは誰かという民間でできないから、市が率先して、場づくりをしてあげるべきではないのかなと。

具体的に何をやるかは、このプランには載せないでしょうけど、これから事業を立案する中でね、ぜひその新しい若い人たち、新しいジャンルの開拓とかね、音楽のまちだったら、若人の音楽の祭典とかね、そういうことがあっていいだろうし。ただ、クリエイターを集めるというだけじゃなくて、そういう人たちが集まって、創作活動ができる場を提供することが、大変重要だと思っていますので、ぜひ今後の事業化については、その辺のことを入れていただきたいと思います。

#### ○野田委員長

今の指摘、一自治体だけでできる範囲も超えていると思うのですけれど、やはりご指摘は正しいかなと思います。ただすべての分野がずっと栄えるということはないのかもしれないけど、この前の国立博物館のショッピングなニュースもありますし、いわゆるソフト事業の予算をどんどん切り詰めるということが全国で起こってきましたから、それに対する反省が少し出てきている。じゃあ、もう1回前に戻すのかというところではないと思うので、そこはぜひ市民の皆さんで若い人の意見も聞きながら、何か新しいものを作っていくことが必要かなと思います。文化会館は、維持するだけでもお金が随分かかるし、予算が減ってくると貸館になっちゃうのよね。ご指摘のように、自主企画をしていた時代もあったけど、やっぱり公務員とか財団の職員の中でも、一部の例外を除くと、そういうことができる人間がいらないのですよね。だから、どうしてもカタログショッピングみたいになるのだけど、カタログから選んで、これ今年買っておくみたいになりがちなのですよ。

#### ○沼上委員

今、岩本さんがおっしゃったことに関連するのですが、市内の学校の授業の中でダンスとかに取り組んで

いて、タウンニュースに載っていましたが、小和田小学校とか茅ヶ崎小学校が優勝したということがいっぱい出ています。あと、市民文化会館の大ホールでの合唱祭であったりとか、美術館でも中学生が絵を飾ったり、学校教育の中で勉強以外の文化的な活動をしている。でも、義務教育を終えたときに、地域で根ざしていき受け皿がないので、高い月謝を払わなきゃいけないとかね。茅ヶ崎で生まれ育った子どもたちが、愛すべき茅ヶ崎の中で大きくなっていく。でも、学校教育の中で芽生えたものが、青少年になり、それが熟成して大人に繋がっていく間の年代がスパッと切れちゃって、高齢者になっちゃう。その間をつなぐためには、さっき岩本委員がおっしゃったように市民文化会館とか、もっと子供たちが気軽に入れるようなアクションがあった方が、地元で育つ子供たちとか青少年が増えるのではと思います。

#### ○伊藤委員

ちょっと話が反れてしまうかもしれないですが、昨日、茅ヶ崎にラジオ局がオープンしましたね。今朝もラジオを聞いていたのですが、そのラジオ局はどういうふうに関後、市民に利用されていくのでしょうか。

例えば今、逗子葉山にあります湘南ビーチ FM というラジオ局は葉山町が一部番組枠を持っていると思うのですね。今はインターネットでどこからでも聞けますが、ラジオとしてはそのエリアを中心に流していて、町長さんが町の方向性とか、今取り組んでいることなどを情報発信しているのですね。

例えば、昨日開局した茅ヶ崎 FM 等をうまく活用しながら、このコミュニティを作っていくとか、もちろん局の方向性というのがあるので、そこから外れることは難しいとは思いますが、ただ一部でもそのような活用方法で、例えばハマミーナとかいろいろ学びの場とか、市民の取り組みの場の情報発信は、紙媒体だけでは難しいところもありますし、インターネットだと使えない方もいらっしゃるの、新しいツールが茅ヶ崎にできたと思いますので、市役所とコミュニティ FM の関連性などを含めて、そういう可能性があるのかどうかをお聞きしたいと思います。

#### ○事務局(大久保課長補佐)

私が広報にいた時の経験からで恐縮ですが、今茅ヶ崎市ではレディオ湘南っていう、藤沢市のラジオ局と、FM ナパサという平塚のラジオ局の両方に番組を持って、今現在も放送しているという状況です。

二つのラジオ局とは、確か防災協定も結んでいて、災害時に防災情報を流していただくなど取り組みをしています。担当課が別のため、正確なお答えではないのですが、今後は伊藤委員がおっしゃるような形で、茅ヶ崎 FM と防災協定を結んだ後に何か番組を持つということもあり得ると思っております。

もしそうなれば、広報の所管課が進めていくこととなりますが、そういった機会を利用して文化生涯学習の情報発信などに活用ができればと感じております。

#### ○野田委員長

是非、市が時間を買上げるのもいいけど、その前に FM の方と市が話しをして、FM としても何かやりたいこともあるでしょうし、市からも考えてこれなら公共性があるということもあるかもしれないので、そういう良い関係づくりが大事だと思うのですね。

一つ私の経験をご紹介しますと、鳥取県に北栄町という小さな町があるのですが、名探偵コナンを書いている青山剛昌さんの出身地ですよ。そこに鳥取県も乗り出してきて、空港に絵を描いたのです。そうしたら、連携したいという事業者が出てきた。だから、茅ヶ崎市が本気でやるぞっていう姿勢があれば、自治体ですから、事業者も絶対何かうまい関係を作りたいはずなのですよ。

そこでは、お互いに違う世界でやってきているから、言葉が通じないかもしれませんが、いつまでもサザンがずっと元気で何万人も集まるわけじゃないから、そのあとどうしようかっていうことも含めて、例えば音楽は若い人たちに支持される番組を作ろうという話にもなる。

そのために市役所は一步退いて若い人でやってもらうのだけど、今、若い人は全然テレビ見てないですよ。持ってないです。年寄りも結構ラジオ聞いている人多いですよね。若い人も音楽番組中心に聞いている人もいますが、数はそんな多くないですね。クオリティをちゃんと考えてやっていくことが大事かと思えますので、まずこの機会に相手方と良い関係を作って、それができれば、すぐ何か始めなくても、何かアイデアが生まれたときに相談ができるじゃないですか。そういう関係が本当に大事だと思います。せっかいい場所にできたわけだから、活用方法はいろいろあると思います。

#### ○清水委員

今のラジオ局に関するんですけど、岩本委員も茅ヶ崎にラジオ局を作る活動をされていた時期があって、私も協力して一緒に宣伝したり、みんなで話し合っってワークショップなど活動をずっとやってきたけれど、どうしても実現なくて、そのゲストで来ていた FM ナパサの方が私に茅ヶ崎ラジオ局というタイトルで、FM ナパサの中で番組をしばらくやりましょうと言って、番組が続いているのは私しかいないんですけど、やっぱりそれって協力してきた方とか、すごくラジオに興味ある方って茅ヶ崎にもたくさんいて本当待望のラジオ局開局だと思うの~~ん~~ですけど、余りに市民の方が何も参加できていないという現状が、やっぱり少し悲しく思いますので、ぜひ市役所とうまく連携していただけたらいいなと思いました。

あと、この 37 ページの多様性のところでいろいろ発言して、取り入れていただいてありがたく思っています。お配りしたチラシでも支援学校の方たちとのコラボとか、原爆被害と平和と共生を組み合わせた被爆ピアノのイベントなどもやらせていただいて、コンサートもこちらの生涯学習の講演もいただいてやらせていただいて、こうした活動が盛んになって欲しいな、インクルーシブはもっと実現して欲しいなと思っていますので、あと山口副委員長が先ほどおっしゃっていた、引っ越してきた方が「まなびの窓口」がわかるかどうかは、今、まなびの窓口は海の方(ハマミーナ)にしかないの、とても引っ越してきた方がわかる状況ではないのかなと。せめて市役所とか、前に提言されていた図書館とかにできる可能性はあるのでしょうか。コーディネーターが育たないといつまでも実現できないと思うので、もちろん私も市民講師として、ハマミーナの「まなびフェスタ」に私の市民団体のメンバーも今年も参加しますし、拠点があるってありがたいんですけど、やっぱり山側に人が参加しやすい場所がないと、なかなか市全体に生涯学習が広がるのは難しいかなと感じています。



#### ○楠山委員

答申の中で、文化芸術の鑑賞体験機会の充実を入れていただき、学校教育としましては、今後も充実させていただけるようお願いしたいと思います。少しずつ機会だったり数だったり増えていくことが、子供たちの学びの深まりになると思います。

今、学校では地域と繋がることを目的として、学校運営協議会というコミュニティスクールを設けています。もちろん公民館の方々ともですが、地域の資源を使って、今、学びの講師の方のお名前もいっぱい上がっていて、多分地域の方もいらっしゃるとお見受けしますが、地域で人材バンクを募るとか、そういった形で茅ヶ崎にはいっぱい宝があると思います。学校にもいろいろとご協力いただいておりますが、学校からも何か発信できることがあったらいいかなと思います。

地域の皆さんと繋がっていきながら、この茅ヶ崎を子供たちがこれからもずっと暮らしていけるように心地の良くなるためにも、やはり学びは、いつまでも、子供だけでなく大人になっても、できるものであって欲しいと思います。地域の方が「老人になったら、余計に学びがしなくなったから老人クラブ作って学んでいる」っておっしゃっていましたが、そういったときに、どんなまなびの場があるのかが、わかりやすく進められていければいいと思いました。

#### ○岩本委員

今後のこともあるので伺います。ゆかりの人物館と美術館の審議会が無くなりましたよね。この推進委員会に統合されると認識しています。確かにそちらからの委員が参加されていますが、今までにただの1回もゆかりの人物館と美術館に関する諮問がない。会議が統合されたのであれば、今までそれぞれで出されていた課題がここに諮問されてしかるべきなんじゃないのかなと思います。

#### ○事務局(粟生田課長補佐)

以前はゆかりの人物館運営委員会、あと美術館運営委員会がございましたが、令和2年度にそれぞれの委員会を廃止し、この委員会に統合しております。

それぞれの委員会の中では、ゆかりの人物館や美術館で行う事業や施策について諮問しておりました。それぞれの施設での取り組みについては、このプランの中でも美術館の取り組みは、施策1に入っておりますし、ゆかりの人物館につきましては施策3にその取り組みが入っておりますので、美術館やゆかりの人物館も含めたすべての取組がこの文化生涯学習プランの中に網羅されていて、そちらについて、今年度この次期プランの改定という形で諮問をさせていただいておりますので、全体として今回の諮問の中に、今の二つの施設の取り組みが入っているものと認識しております。

#### ○岩本委員

取り組みが入っているとかが入ってないという話じゃなくて、今までそれぞれの委員会に諮問されていたような内容は1回もここに諮問されていないということを聞いているのですよ。大卒の話がここで載っているという話じゃなくて、そんなことは、ゆかりの人物館の運営委員会や美術館の運営委員会でやってないでし



よ。もっと具体的なことをやっているでしょ。誰の企画展やりましょうかとか、こないだの企画展はどうだったかという話をしているわけでしょ。会議が統合されたというのであれば、そういう話がこの委員会に出されてしかるべきなんじゃないでしょうか。

○事務局(粟生田課長補佐)

今後、この文化生涯学習プランの進行管理が来年度から始まる形になりますので、その進行管理の中で、ゆかりの人物館や美術館もこれまで、それぞれの運営委員会の中で行わせていただいた諮問に近いような形も検討しております。

○岩本委員

それをきちんとやらしてもらわないと、統合じゃなくて廃止だったのかという話になるわけだよ。予算がないから運営委員会は無くしましたとかさ。茅ヶ崎の場合、文化芸術はどんどん後ずさりしているからしょうがないかなと思うけど、統合したって言うのであれば、ちゃんと統合した形を作ってやりましょうよってことなのだよ。そうじゃないと、会議どうなったのって聞かれたときに、いや、推進委員会で取り上げていますよと言えないから。聞かれたときに困らないようにしてほしいと思ったので、だから無くなったら無くなつたでいいの、潔く無くしましたでいいのですよ。答申に載っているけど、運営委員会があった時だって載っていたじゃない。でも努力してください。ていうか、どっちでもいいからやめるならやめたって言えばいいんですよ。それでもいいから、はっきりしようということですよ。

○伊藤委員

多分その事業報告とか運営報告の場が、ゆかりの人物館は確かになくなっていて、それを報告するとか確認する場はこの委員会ではないのかなと思いつつ、逆に言うとそういう、報告できるような場、様々な団体というか、施設がないですよ。そういう場は本当に必要なのかな。岩本委員がおっしゃるように、今どうなっているのか今年度はどうだったのか、どのぐらい人が入ったのかというような報告は絶対必要だと思うのですが、この委員会でする内容ではないとは思いますが、そういう場は、他にあってもいいし、あるべきだと思います。

以前はゆかりの人物館だけとか美術館だけでやっていたと思うのですが、多分そういう施設が一つに集まって情報交換や状況確認をするということがあっていいのかなと思います。それは多分活性化にも繋がっていくと思うので。もし機会があれば、各々の運営委員会ではなくて、何かこう市内のいろんな施設が集まった報告会というか運営委員会的なものがあると望ましいのかなと思いました。

○野田委員長

その通りだと私も思いますが、もしここでやるのであれば、このメンバーやこの回数では無理だと思います。美術の専門の方とか、ゆかりの人物館のアドバイザーといった人にも入ってもらって人を増やしたり、時間も全然足りませんから、増やす必要があって、いずれしても予算がかかってくるわけですよ。

だからおそらく一番の理由は、予算をカットしたかったということだと思います。ただ、それでも今のご意見は全くその通りで、やりっ放しはまずいかなと思いますね。以前みたいに ABCD 評価で、A だからいいとか、そういう話ではなくて、どういう企画をやって、どういう反応があってどれだけ人が来て、どういう感想だったかっていうことと、予算がいくらかかっているのかということとは、どこかで外部の人の目も入れてやっていく必要があると思いますので、これは引き続き検討ですね。

別の委員会を作ってそこでやってもいいし、ここの委員会の部会でやってもいいけど、それはやっぱり専門だしね。やめちゃったのはまずいと思いますね。そこで公民館も一緒にやるべきだよ。教育委員会でやればいいじゃないかな。いや、公民館は館長会議やっているでしょ。趣旨からしたら一緒にやったほうがいいかなと思いますけど。そこは市で議論してみてください。今後の課題としてとても重要なことだと思います。

#### ○山口副委員長

文化生涯学習プランの美術作品の鑑賞の機会の充実という中で、市内のそういったところを全部見て回れるパスポートを出して欲しいということとずっとお願いしていて、今実現しているのですよ。美術館で年間パスポートを買くと、ゆかりの人物館でも割引がついて、美術館はそのまま入れるのですけど。

#### ○松本委員

美術館の年間パスポートです。美術館だけ。神奈川県立美術館とか、意外とこんなところで使えるというところがありましたね。

でも、市内ではそういうのは知られていないので、ぜひして欲しいっていうか、今美術館の年パスを今度多分更新したら 4 枚目になるのですけれども、前だったら 1 回行って、もういいかと思っていたのですけど、講演会に参加して、またそこで見てって、それがゆかりの人物館ではできてないです。

今、多目的室であまりイベントはできてないですけど、コロナの前に講演会が多目的館であって、帰りにもう 1 回展示見たいだろうなと思うけど、1 回見たからいいですって帰られることが多いので、美術館みたいな年間パスポートというか、会期中だったら、市内の方だったら、何回も入れるとか、実は鎌倉市の市立の美術館とか、映画のところとかは、市民は無料になりました。1、2 年前から。それでその分市外から来る人の料金を高くしているので、私は鎌倉市の友達と行くことが多くて、あなたの分まで私払っているっていうふうに言うのですけど、何かその市民の学びを深めるという意味でも市民のそういう特典が、あったらいいかなとはひそかに思っておりました。すいません話取ってしまいました。

#### ○山口副委員長

とてもいいことだと思います。フランスあたりだと、日本から行くときでも、パスポートを日本で買っていけば並ばずにほとんどの教会とか美術館を見られるので、やっぱりそういう仕組みが、何らかの形であったらいいなとずっと思っていて。一体どこが実現してくれたのかと思っていました。ただ、毎年紙に書いて、また申請するという手間があって、前に書いたでしよって思うのですけど全然その辺まだ充実していな

いのですけれども。私も4回更新していますが、そのたびに書くのは何か変だなんて思います。そこはもっと充実させて、どこでも手を組んで1回博物館も行かれるとか、値段上げてもいいけれど、それがどのくらいで保てるかとか、そういうことを考えてくれる場所が、どこで決められたのかなと思って、今岩本さんがおっしゃった美術館の会議だったのかなと思っていました。やっぱり、いろいろな方法を使って建物の中でやることだけじゃなくて、氷室椿園に入れるとか、そうしたことも考えていいのかなと思っております。

○野田委員長

この手の話はよく出て、反対する人はいないのですけど、やり手がないのですよね。忙しくなるだけで、調整が本当に大変ですから日本の場合は。できたとしても、人が変わると引き継がれないかもしれませんから、やっぱり利用者の方がちゃんと監視して、おかしかったらおかしいじゃないかって言って、場合によっては自分たちも関わって行って何かやっていくということもあるかなとこれからの時代は思います。次の議題のその他の話まで入ってきていて、そろそろ時間になりますので、答申のことも結構ですし、答申を離れても構いませんので、オフィシャルな会議は今日で最後ですから、文化生涯学習に関するご意見、細かいことでも、大局的でも結構ですから、何かありましたらどうぞ。

○矢川委員

44ページの文化生涯学習活動拠点の地図に、コミュニティセンターが載っていないのはなぜでしょうか。コミュニティセンターでも、生涯学習に近いことはやられていて、生涯学習ガイドブックには、生涯学習関連施設にコミュニティセンターが載っているのですが、これは何かあるのですか。分野が違うとか。

○事務局(井上課長補佐)

ご指摘の図につきましては、文化推進課の所管施設と、教育委員会の所管施設という分け方をしております。コミュニティセンターにつきましては、地域の活動を担当する課が所管になっておりまして、この図には載せていないのですが、生涯学習講座などが実際に行われていることは把握しております。

○野田委員長

何か所くらいあるのですか。

○事務局(井上課長補佐)

現在11か所で、将来的に13か所を目指しているところです。

○野田委員長

これは工夫すれば入るよね。入れれば大体網羅するでしょ。

○事務局(井上課長補佐)

この図のタイトルが「文化生涯学習活動の拠点」となっているのですが、コミュニティセンターは地域集会施設であり、地域の集会や地域の拠点であるところが主目的になっており、そういう相違点があるので記載していない状況です。

○野田委員長

市民にとっては、講座があろうがなかろうが集まって話し合いをすることも立派な文化生涯学習の活動だと思うのでね、先生がいるばかりじゃないと思いますから。ちょっとタイトルを工夫して入れていけば、ほぼ網羅したものができるかなと思いますので検討してください。おそらく市民にとって通じない理屈になっているから。

○岩本委員

委員長がおっしゃった通りでね、文化生涯学習活動の拠点って書いてあるからコミュニティセンターを入れにくいって話でしょ。でも例えば、堤貝塚はデートスポットかもしれないじゃない。学習で使ったことはないけど、デートで何回も言ったよとか、そういう人だっているわけでしょ。だからもうこだわらない方がいいと思うよ。文化生涯学習の場とかね。何かよくわからない名称にしておけばいいじゃない。それで、文化生涯学習に関係するものは全部突っ込む。何課がやっつていようと知らん顔してどんどん突っ込んでおけばいいよ。文句言ってくるまで。

○野田委員長

あんまり言葉に引きずられないで、例えば、僕なんかよく使うのは交流っていうと、何もかも交流なので。だから文化創造交流拠点とか書いておけば何でもオーライなので、大体そういうふうに考えてきましたし、岩本委員がおっしゃる通りですから、使いやすいデータの方がいいじゃないですか。少しでも市民に読んでもらえることになると思いますので。そこはこの委員会でも言われてきた庁内連携の話なので、ぜひこういう具体的な案件をもって、庁内連携に向けた話し合いをしていただきたいと思います。

○野田委員長

他にございますか。よろしいですか。

それでは、この答申については、今、一部検討して欲しいという指摘があったところについては引き続き検討していただいて、修正後の文章の確認は私と副委員長にお任せいただいて、修正をした上で答申を市長へ提出するということになります。その後は議会にかかって正式な計画案になりますが、それと並行して、来年度予算の要求作業が年内に事務局で行われるでしょうから、このプランを踏まえた考え方でやっていくということになると思います。

〔議題2 その他〕

それでは、議題2の「その他」に移りたいと思いますが、事務局より何かありますか。

○事務局(大久保課長補佐)

事務局からは特にございません。

○野田委員長

委員のみなさまから何かございませんか。

○沼上委員

推進委員会の進め方という前回配られた資料3に、11月から12月の全員協議会に諮ると書いてありますが、これはどこの委員会ですか。

○野田委員長

全員協議会とは議会のことです。市民が全員集まる委員会ではありません。

○沼上委員

12月の議会にかかるということですか。これがかかるとすれば傍聴に行こうかなと。

○事務局(大竹文化スポーツ部長)

市議会の定例会に議案としてお諮りするわけではないのですが、全員協議会ということで、市議会議員の皆さんに内容について、私どもの方からご説明差し上げるという機会になります。

○沼上委員

わかりましたありがとうございます。

○野田委員長

他にありますでしょうか。それでは今年度の委員会はこれでおしまいです。ここで私からの提案です。クリエイターシティ・チガサキという新しい事業が答申に出てきていますが、ここであまり議論する機会がなかったのも、皆様もいろんなご意見もあろうかと思っておりますので、任意で1回やりたいと思います。

10月か11月に市役所で、有志で集まれる方だけで結構ですから、この事業に限定して、今後の文化生涯学習の取組の一環として、情報共有や議論ができればと思います。後で事務局の方から日程調整させていただきますので返信してください。

これは任意の会ですから、記録を取るのもなしにしますので、自由に発言していただければと思います。

ユネスコ申請は大きい案件ですが、情報が十分に共有できてないと思っておりますので、その辺も私からご説

明したいし、皆さんのご意見も聞きたいし、何よりやっぱりすべての方々が、一緒にやっつけていこうとならないとできませんから、どうしていったらいいかをお話し合えたらと思っています。よろしくお願いします。

○沼上委員

すみません。全員協議会って市民の代表である議員さんに説明をするわけですよね。議員さんから意見が出ることもありますよね。その場合は、修正になるのでしょうか。このプランの最終案をもって、議員さんにお諮りをして、それから先はどうなるのですか。

○事務局(粟生田課長補佐)

議員さんからのご意見を踏まえて修正する場合もあると思います。

○野田委員長

よろしいでしょうか。ありがとうございます。これで終わりますが、もう1回有志で集まるのが、今確認されましたので、事務局と調整します。

○事務局(大竹文化スポーツ部長)

野田委員長からご案内がありましたように、本日が今年度の最後の会議ということになります。本日も本当にご熱心な議論を終えて、貴重なご意見賜りまして、大変ありがとうございました。

昨日から10月を迎えまして、私たちが着ているアロハシャツに触れる空気もめっきり秋らしくなってきたところですが、振り返りますと、6月30日に第1回のこの委員会をスタートしまして、実に3ヶ月ほどの間に、たくさんのご議論いただきましたこと、座長をお務めいただいた野田先生はじめ、委員の皆さんがそれぞれの立場から貴重なご意見賜りましたこと、この場をお借りしまして、感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

事務局におきましては、この後策定に向け、先ほどご質問がありました全員協議会ですとか、パブリックコメントなど、滞りなく手続きを進めさせていただきまして、委員会の皆様の方から頂戴しますこの答申を元に次期プランに位置付けました目標の達成、また目指す姿を皆さんにお見せできますように、しっかりと施策展開していくことをお約束いたしまして、簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。皆さん大変ありがとうございました。

○野田委員長

ありがとうございます。以上をもちまして本日の会議を終了いたします。皆様、お忙しい中、ご審議いただきありがとうございます。これをもちまして、令和5年度 第4回茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会を閉会いたします。